

国立大学法人静岡大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

静岡大学は、「自由啓発・未来創成」のビジョンに基づき、人材育成を旨とし、質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、光関連企業と共同で「国際科学イノベーション拠点」としての事業を進めるとともに、「浜松を『光の先端（せんたん）都市』に～浜松光宣言 2013」に調印（平成25年6月11日）、発表するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、産業界と連携したグローバル人材教育システムを構築し、アジアを中心とした企業の海外展開等を支える国際人材の育成に取り組む戦略的・意欲的な計画（平成25年度に中期計画を変更）を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、「グローバル改革推進機構」を設置し、特任教員（1名）を採用したほか、東南・南アジア地域の協定大学と連携し、グローバル人材育成のための教育プログラム実施に向けた協力体制の構築を目的とした新たな国際研究会議（インターアカデミア・アジア）の設立に向け、インドネシア、タイなど6か国、12大学（うち9の協定校）から関係者が出席し、設立準備会を開催している。

（機能強化に向けた取組状況）

教育組織と教員組織の分離を決定するとともに、教員人件費1%を学長管理大学改革推進枠として確保し、グローバル人材育成をはじめとする全学横断的教育プログラムの実施のための人員配置や今後の組織整備に向けた資源再配分に活用する枠組みを構築したほか、教職員の人事評価を処遇に反映するシステムを検証し、充実・整備することに加えて、年俸制を導入・促進することを決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学術認証フェデレーションへ参加して、静大IDの発行を行い、図書館、学務情報、語学研修用、教員データベース、e-learningの5つのシステムの運用を開始し、ユーザ管理の一元化を行ったことにより、ユーザID発行・削除といったユーザ管理が不要

になり、あわせて、図書館が契約している電子ジャーナル等が学外から利用可能となっている。

- 教育研究両面での国際化の推進のため、外国人教員の採用を促進する方策として、「外国人研究者採用加速システム」を策定し、新規採用の外国人教員の人件費を学長管理枠から措置することとしたほか、大学改革推進（学部改組、全学的教育カリキュラムの実施、国際交流部門の教員組織充実等）のための人件費を学長管理枠から措置しており、工学研究科では、改組後のグローバル教育充実のため、外国人教員5名の採用方針を決定している。

平成25年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成24年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成24年度から平成25年度において90%を満たしておらず、法科大学院については、平成28年度から学生募集を停止する決定をしていることから、今後、速やかに、学長のリーダーシップにより、将来構想をとりまとめることが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程において学生収容定員の充足率が90%を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

（①財務分析結果の活用、②外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、
③経費の抑制、④資産の運用管理の改善）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成24年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 静岡大学の概要、教育、研究、活動内容などを、広く一般に動画でダイナミックに情報発信することを目的に、平成 25 年 4 月にクラウド&コンピューティングによる Web 動画サイト「静岡大学テレビジョン」を創設し、ウェブサイトで公開しており、平成 26 年 4 月現在、動画数は 654 件で、訪問数は約 1 万 9,000 件となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 静岡大学未来創成基金の一部を活用し、修学に際し成績が一定以上でかつ家庭による経済支援が困難な学生に対し前学期 5 名及び後学期 5 名に授業料半学期相当額の奨学金を給付したほか、優秀な成績で入学試験に合格した学生に奨学金を給付する制度の創設（工学部）や寄附金による奨学金の給付（法務研究科）に取り組んでいる。
- 平成 24 年のインドネシアに次いで、タイにおける卒業生ネットワークの立ち上げに取り組み、設立総会が平成 26 年 3 月に実施された。また、静岡大学留学同窓生向け SNS の立ち上げによる情報発信や同窓会メンバーとの情報交換により、卒業・修了した留学生の組織化を進めている。
- 「光創起イノベーション研究拠点」事業について、静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、光関連企業が共同で実施するとともに、4 機関で「浜松を『光の尖端（せんたん）都市』に～浜松光宣言 2013」を調印、発表し、密接に連携して力を結集し、世界に発信できる光科学の創造、新産業の創出、次世代を担う人材の育成を行う光拠点として整備することとしている。

共同利用・共同研究拠点関係

- 電子工学研究所では、公募型の共同研究プロジェクトについて、学長裁量経費を加

え、予算を増額することで、前年度より 70 %増の 29 件を採択し、共同研究による一層の研究強化を図っている。また、目では捉えることのできない現象や情報を画像化する極限性能イメージングデバイスの開発とその応用に一層強みを発揮できるよう、ナノビジョン研究部門・極限デバイス研究部門・ナノマテリアル研究部門・生体計測研究部門の 4 部門を設け、教員数も 2 割増の 33 名とするなど、研究組織の整備・充実を行っている。